

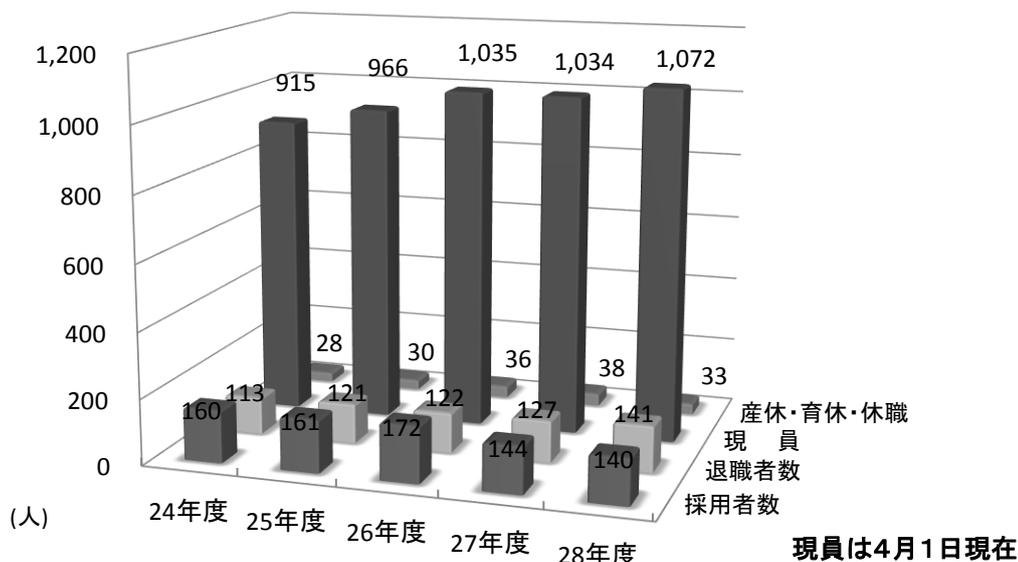
## 35 看護部



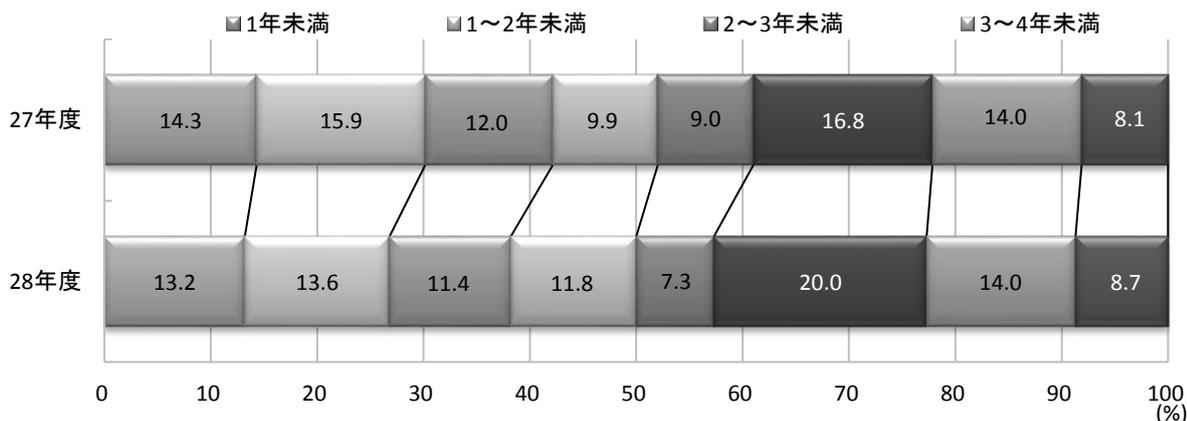
看護部は、「SWEET」をモットーに、看護職員一人ひとりが自己の役割と責任を果たすべく看護業務に取り組んでいる。28年度の退職率は13.1%であり、看護職員の確保・定着に努めている。(図35-1, 35-2)。「重症度、医療・看護必要度」において、A項目は急性期患者の特性(モニタリング、処置)を、B項目は患者の状況(自立度)を、C項目(28年度診療報酬改定で追加)は手術等の医学的状況を評価している(図35-3、35-4)。患者の観察度、自由度(図35-5、35-6)からは重症患者が年々増加してきているものの、依然として全病棟で常にB項目の点数が高く、日常生活援助に多くの看護力を費やしている状況である。28年度診療報酬改定で7対1入院基本料の算定条件は、A項目2点以上かつB項目3点以上、A項目3点以上又はC項目1点以上の患者割合が25%以上へと引き上げられた。これを維持するために、評価精度の向上、指導者の育成ならびに全看護師への教育を継続して実施している。各診療科とともに高度急性期を担い、特定機能病院としての役割を果たせるよう取組んでいく。さらに在院日数の短縮により、治療処置・ケアニーズの高い患者が外来へとシフトしていることから、在宅療養指導や看護外来の充実を図り、患者支援強化に向けた取組みを継続している(表35-7)。今後も入院前から退院(転院・在宅)に向け、積極的に介入し、継続看護の更なる質向上を目指す。

- Sincerity : 誠実(な行動)
- Warm : あたたかい(対応)
- Evidence : 根拠ある(実践)
- Ethics : 倫理(的感性)
- Technique : (確かな)技術

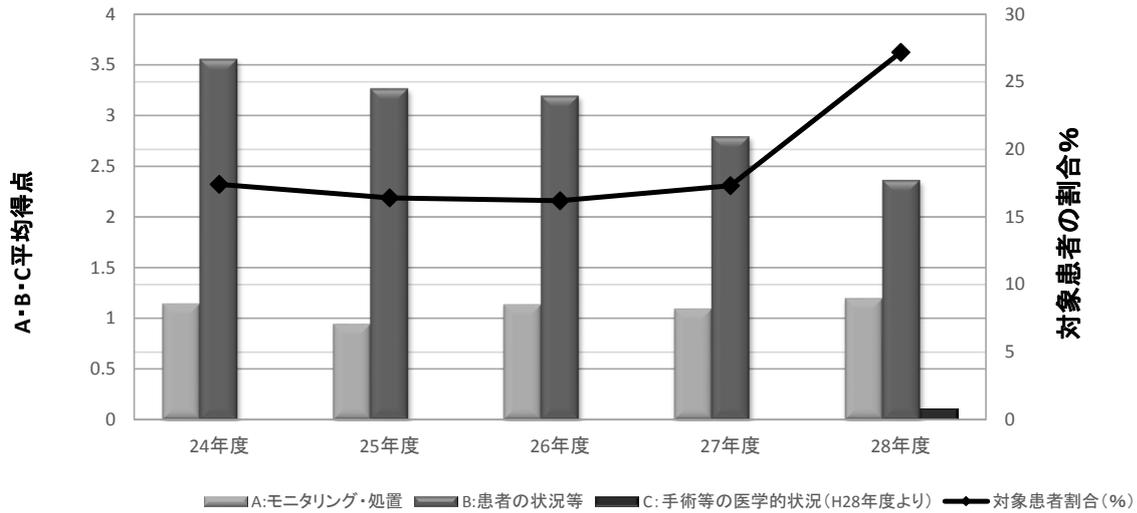
### 35-1 看護師数の年度別推移



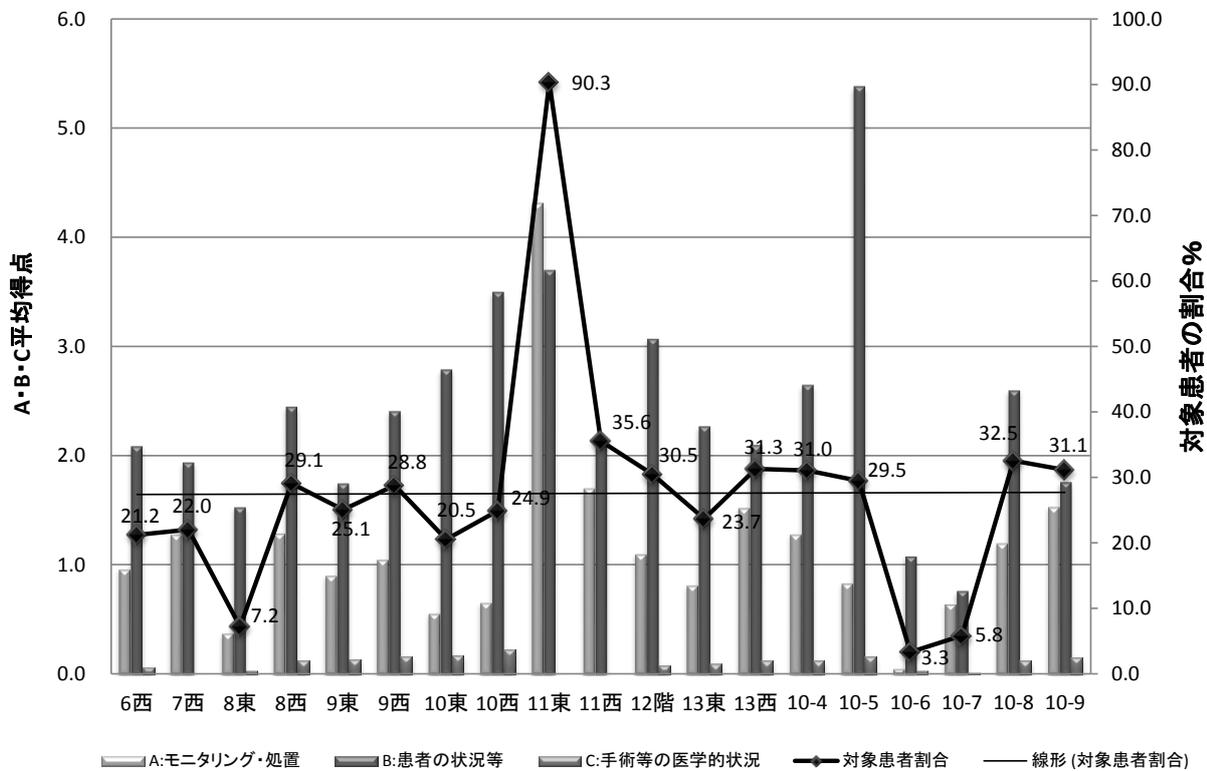
### 35-2 看護師当院在職年数別の年度別構成比率(4月1日現在)



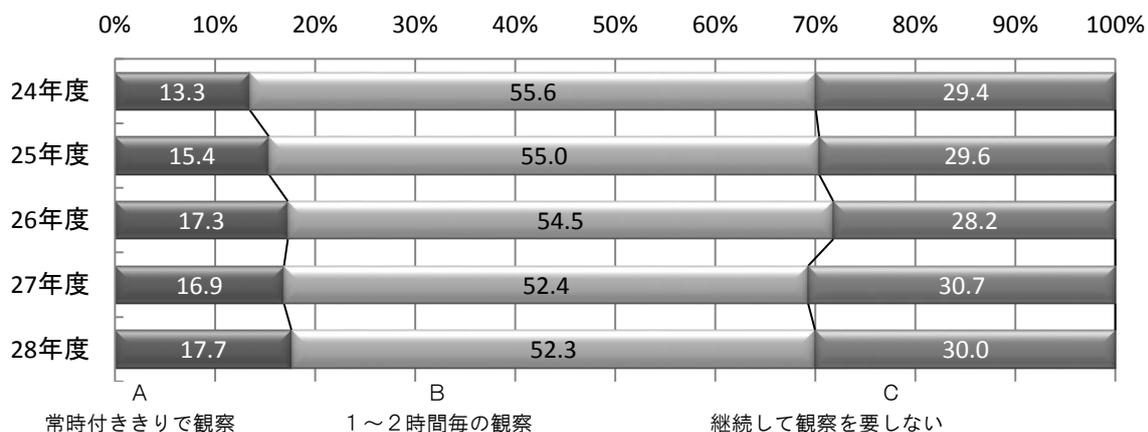
35-3 7対1対象病棟における重症度、医療・看護必要度平均得点の年度推移  
 対象患者：A項目2点かつB項目3点以上、A項目3点以上又はC項目1点以上  
 ※28年度診療報酬改定により項目の変更、C項目の追加あり。



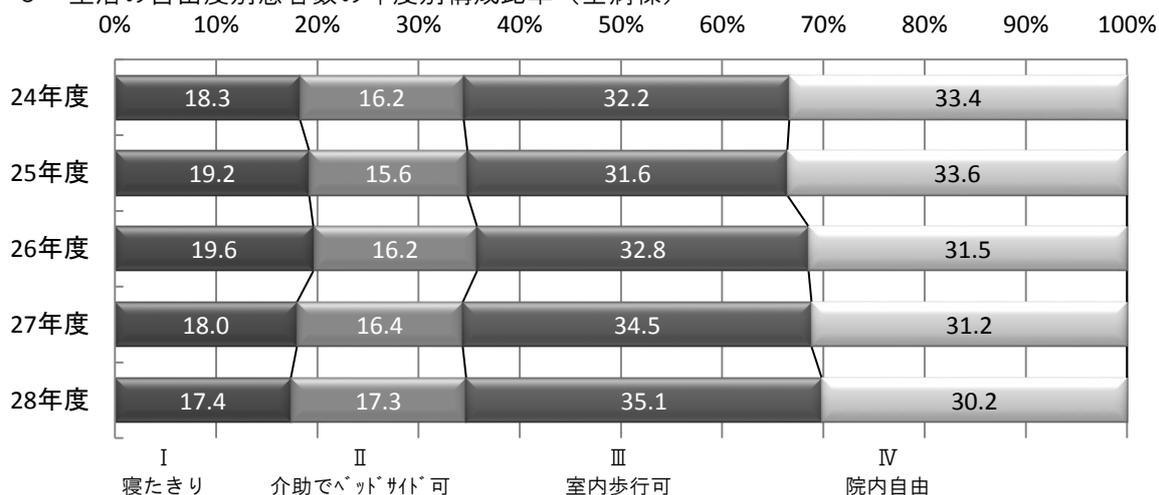
35-4 28年度 7:1対象病棟別重症度、医療・看護必要度 項目別平均得点および対象患者割合



35-5 看護観察度別患者数の年度別構成比率（全病棟）



35-6 生活の自由度別患者数の年度別構成比率（全病棟）



35-7 年度別外来看護活動状況

(件)

区分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度 構成比率 (%)
患者数	緊急入院	1,942	1,947	2,057	2,275	2,476	1.6
	複雑ケア	20,296	17,361	18,151	19,401	19,483	12.5
処置	注射（一般）	30,082	29,128	30,612	30,229	29,087	18.6
	注射（化学療法）	8,495	8,290	3,051	2,859	3,024	1.9
	輸血	910	736	602	557	815	0.5
	処置	81,525	77,803	78,212	77,486	71,235	45.6
	特殊検査	20,273	18,577	20,629	19,935	22,519	14.4
	手術（自科手術室）	3,381	3,315	3,543	4,013	4,007	2.6
在宅療養指導・看護外来	自己注射指導	678	526	516	678	803	0.5
	自己腹膜灌流指導	7	23	23	5	11	0.007
	酸素療法指導	76	66	46	64	155	0.10
	中心静脈栄養法指導	3		8	4	5	0.003
	成分栄養経管栄養法	36	54	26	19	14	0.01
	自己導尿指導	54	28	64	43	60	0.04
	ストマケア指導	1,199	1,006	1,082	1,127	955	0.6
	ストマサイトマーキング	-	-	169	183	224	0.1
	化学療法	16	18	36	12	17	0.01
	糖尿病透析予防指導	-	-	482	425	485	0.3
	フットケア	-	-	366	521	497	0.3
	リンパ浮腫外来	-	-	468	141	116	0.1
	マタニティヨガ教室	-	-	76	92	78	0.0
母乳外来	-	-	100	152	138	0.1	
合計		169,132	159,013	160,319	160,221	156,204	100.0